にいがた文化の記憶館ニュース

にいがた文化

第７号
2022年３月

尾竹竹坡・尾竹國観《松一木》双幅　制作年不詳（明治後半～大正前期）個人蔵
企画展示「日本美術界の旋風児　尾竹竹坡」（２０２１年11月23日～２０２２年３月６日）後期展で展示

尾竹國観 作

尾竹竹坡 作

《松一木》資料解説　美術学校派に対する尾竹兄弟の矜持か

左の絵は竹坡作で、右は弟國観作という共作です。つぎはぎの単衣姿の貧しげな町人がムシロに正座し、手塩にかけた松の盆栽を見つめている。一方、女づれ（駕籠の中）で、小僧を従えた裕福な町人がその盆栽を求めたものの、貧者は決して譲らない姿勢のようです。

どのような意味なのでしょうか？能や人形浄瑠璃、歌舞伎などに「鉢木（はちのき）」があります。鎌倉時代の執権北条時頼が晩年諸国を漫遊した伝説から創作された物語です。

内容は大雪の夜、旅の僧があばら家に一夜の宿を求めたところ、迎えた貧しい武士が大切に育てた松、梅、桜の盆栽を燃やして暖を与えた。しかし武士は所領を奪われて落ちぶれたものの、いざ鎌倉に備えて武具や馬は残してあると。翌年、突然の召集により駆けつけると、御前に時頼がおり「旅の僧は実は自分だ。よく馳せ参じた」とほめたたえ、旧所領と松、梅、桜の名のつく領地を与えたという。

そこで、尾竹兄弟は「鉢木」の物語を逆転させて暗喩したのではないか。横山大観ら美術学校派の横暴で文展から落選させられた尾竹兄弟の意地を示した作品と解釈できそうです。

＝目次＝

●表紙　尾竹竹坡・尾竹國観《松一木》
●先人の文化的粒子を吸ってます　常務理事・事務局長　武藤斌……2ページ
●２０２１年４月からの「にいがた文化の記憶館」活動報告……3～5ページ
●イベントリポート　無声映画『明け行く空』活動弁士・音楽付き上映と講演会……6～7ページ
●講演会リポート　尾竹竹坡～作品の変遷……8～9ページ
●松岡譲展に寄せて　半藤末利子さんインタビュー……10～11ページ
●文化功労者パネルを追加しました……12ページ
●来館者の声、文化人似顔絵パンフレットの紹介……13ページ
●「学びの回廊」づくりを目指して～「にいがた文化ネットワーク協議会」のご案内……14ページ
●寄稿　上越市前島密記念博物館（前島記念館）前島記念館館長　利根川文男氏……15ページ
●新潟県内の文化人顕彰施設・団体からのＰＲ情報……16～20ページ
●にいがた文化の記憶館利用案内……20ページ

先人の文化的粒子を吸ってます

常務理事・事務局長　武藤　斌

小説『尋ね人の時間』で芥川賞作家となり、歌「千の風になって」の作曲で一世を風靡した新井満氏（新潟市出身）が昨年12月亡くなった。同時代人として彼の業績を知る人は多いでしょう。しかし50年後、１００年後でも彼を文化的偉人として親しみ、顕彰する人がどれだけいるでしょうか。どんな偉人も死後50年で忘れられるといわれます。長寿化している現代では70～80年ぐらい同時代人に記憶されるかもしれません。

県内には30館ほどの偉人顕彰館がありますが、来館者は少なく閉館になったところも。全国の趨勢も同様です。こうした危機感から「にいがた文化の記憶館」は２０１３年創館されました。以来９年目を迎えました。本県とゆかりの深い文化的偉人を顕彰してきましたが、その基準とする目安は偉業が全国的レベルで評価され日本人名大辞典などに載っている物故者としてきました。しかし文化勲章受章者と文化功労者そして人間国宝（重要無形文化財保持者）とされた人々は選定当時に生存者ですが例外として扱ってきました。

開館当時の文化功労者は11人でしたが、以来、労働経済学の小池和男、短編小説家の阿刀田高、野外アートディレクターの北川フラム、映画評論家の佐藤忠男、五輪体操で金メダル８個の加藤澤男そして昨年は素粒子ニュートリノに質量があることを発見した鈴木厚人ら６氏が続きました。予想を越える増勢で当館の文化功労者スペースは満杯となり、うれしい悲鳴の一方、展示形式の見直しが迫られています。

この間、来館者から指摘もあり、二代目英太郎（新派俳優の女形）、半藤一利（昭和史研究作家）、日本中世史学者の佐藤進一らを加えるべきとの提案もあり、うち２氏をひとまず展示化しました。文系の人物は既刊の郷土史などで記載がありますが、理系の人物は専門性が高いせいか記載が少なく、我々も苦手のためか見落としてしまいがちです。学芸員２人だけでは対応しきれず、支援の輪を広げることも迫られています。

ともあれ新年度は企画展として、『吉野朝太平記』で直木賞作家の鷲尾雨工（新潟市生まれ小千谷育ち）、有恒学舎（県立有恒高校の前身）を創設した教育者の増村朴斎（上越市）、コスモス短歌会を主宰した歌人の宮柊二（魚沼市）、以上３人を中心に紹介する計画です。

これらの人物は生没年が区切りのよい周年に当たり、上中下越と出身地をバランスよく選定しました。作家、教育者、歌人と展示物は文字が主体となり、絵画展のような派手さはありませんが、多くの読者、卒業生、歌詠みを育て、日本の文化を豊かにした人々です。３人とも一世を風靡した方々です。現在の感覚でいえば新井満氏のように知名度の高い人物だったと言ってもよいでしょう。

私たちが吸う現代の文化的空気には当館が顕彰する文化人の偉業の遺伝子がたっぷりと含んでいると思います。ときにはそんな空気を吸ってみませんか。さいわい新潟県は昨秋から「にいがたぐるっとミュージアム！パスポート」を始めました。このような企画が今後も相次ぎ、県民も多いに活用してほしいものです。

さて当館設立から今日まで９年間務めてきました神林恒道館長と事務局長武藤は本年度で退任し、今後は顧問として側面協力に回ります。当館へ一層のご支援をお願いいたします。

會津八一が愛した
新潟の和菓子
里　仙
本店／新潟市中央区古町13
☎（025）228-9234㈹

2021年4月からの「にいがた文化の記憶館」活動報告1

企画展示1
「日本映画初の女性脚本家 水島あやめ」

概要

映画産業が生まれたころ、松竹キネマ蒲田撮影所で日本初の女性脚本家が活躍しました。南魚沼市出身の水島あやめ（1903～90年）です。水島が書いた脚本は松竹初の女優・川田芳子（新潟市出身、1895～1970年）らの主演により映画化されました。

水島が脚本家として活躍したのは無声映画の時代でした。映画が無声からトーキーに切り替わるころ、水島はかつて憧れた少女小説作家に転進。そこでは、すでにスター作家であった吉屋信子（新潟市、1896～1973年）や蕗谷虹児（新発田市出身、1898～1979年）らと出会い、第一線の少女小説家として多くの少女たちに夢を与えました。

本展では、水島あやめの没後30年の節目に、関連資料とともに水島あやめを紹介しました。

会期　2021年4月6日（火）～7月11日（日）

後援　南魚沼市教育委員会

展示協力　因幡純雄氏、高野恵美子氏

無声映画提供協力　株式会社マツダ映画社

「日本映画初の女性脚本家 水島あやめ」展覧会風景

関連イベント

◎無声映画『明け行く空』活動写真弁士・音楽付き上映と講演「日本初の女流脚本家・少女小説作家 水島あやめ」（6～7ページに詳細）

◎作品解説会　全3回

県内市町村への協力

南魚沼市教育委員会は郷土史発刊記念事業として、2021年9月12日に水島あやめの映画上映会と講演会を開催しました。上映した映画は水島あやめが原作、脚本を手掛けた松竹作品の『美しき愛』（昭和6年公開）、農林省畜産局によるタイアップ映画で、美しい農村を舞台に繰り広げられるヒューマンドラマです。活動写真弁士は佐々木亜希子さん、楽士は永田雅代さん。当館主催上映会でもご出演いただきました。

つづいて、当館企画展示にご協力いただいた評伝著者の因幡純雄さんが上映作品の解説などを交えて水島あやめと南魚沼市について講演しました。

イベントにあわせて、会場の南魚沼市民会館大ホールホワイエでは「水島あやめパネル展」を開催。展示資料として、当館の水島あやめ展で使用した写真パネルや相関図を提供しました。当日は南魚沼市内外から400名近い来場があったそうです。多くの方に見ていただけて、当館にとっても良い機会となりました。

「水島あやめパネル展」
（会場：南魚沼市民会館 大ホールホワイエ）

時代のニーズが生んだ最先端の大学

事業創造学部
■アントレプレナーコース
■ビジネスクリエイターコース
■次世代経営プロフェッショナルコース

情報学部
■AI・データサイエンティストコース
■IoT・ロボティクスエンジニアコース
■クラウドエンジニアコース
■サイバーセキュリティコース

アニメ・マンガ学部
■アニメコース
■マンガコース
■キャラクターデザインコース

開志専門職大学
KAISHI PROFESSIONAL UNIVERSITY

カナエルチカラ、29の専門学校。
NSGカレッジリーグ
NSGカレッジリーグ 検索
http://mydreams.jp/

2021年4月からの「にいがた文化の記憶館」活動報告2

企画展示2
「生誕130年　松岡譲」

概要
長岡市出身の松岡譲（1891～1969年）は、長編純文学でその力を発揮した小説家です。父は真宗大谷派の僧侶でしたが譲は仏門に反発して上京、東京帝国大学哲学科在学中に夏目漱石の門人となりました。卒業後、漱石の長女・筆子と結婚。代表作にはベストセラーとなった宗教文芸『法城を護る人々』があります。また、生涯にわたって漱石の研究に力を注ぎ、『漱石先生』などの著作も残しました。本展では生誕130年を記念して、松岡譲の著書や原稿、書画作品などを展示しました。

「生誕130年 松岡譲」展覧会風景

会期　2021年7月27日（火）～11月3日（水・祝）

展示協力
半藤末利子氏、本覺寺（長岡市）、新宿区立漱石山房記念館、長岡市立中央図書館、長岡ペンクラブ

関連イベント　解説会（全3回）

松岡譲展解説冊子 販売中です

2021年11月発行
定価　500円（税込）
にいがた文化の記憶館 編集・発行

松岡譲展解説冊子 表紙

企画展の解説をまとめた冊子を販売中です。巻頭には、半藤末利子氏（松岡譲四女・エッセイスト）のインタビュー「松岡譲展に寄せて」を掲載しました。本書で、多才な松岡譲の足跡の一端を改めて感じてみませんか。
※掲載資料は、展示した資料の全てではありません。何卒ご了承ください。

〔主な内容〕 半藤末利子氏インタビュー、展示解説、松岡譲を中心とした人物相関図、松岡譲関連年表

解説冊子は、にいがた文化の記憶館で販売中です。郵送も承っております（送料実費）。お電話でのお問い合わせは、開館日の開館時間内にお願いいたします。

「坂口安吾と半藤一利」

概要
2021年度に新潟日報社の所蔵となった坂口安吾直筆書簡（坂口献吉宛て）の一部を、新潟日報社創立記念日（11月1日）に合わせて公開した小展示。今回は、松岡譲の娘婿のひとりでもあるノンフィクション作家の半藤一利（1930～2021年）の安吾関連書籍とともに紹介しました。半藤一利は文藝春秋社に入社して安吾の原稿取りをし、安吾に私淑して「歴史探偵」を名乗りました。

「坂口安吾と半藤一利」展覧会風景

学校法人　日本歯科大学
THE NIPPON DENTAL UNIVERSITY
新潟生命歯学部　生命歯学科
新潟短期大学　歯科衛生学科
〒951-8580　新潟県新潟市中央区浜浦町１－８
TEL（025）267-1500（代表）
▪ 新潟生命歯学部 URL:https://www.ngt.ndu.ac.jp/
▪ 新潟短期大学　URL:https://www.ngt.ndu.ac.jp/jc/
▪ 医の博物館　開館時間：9時00分～16時00分

お客様に感動を　社会と文化に貢献を
FUJIFILM
株式会社 新潟フジカラー
新潟市東区中栄2丁目23番16号
TEL:025-275-1341 FAX:025-271-1402
https://www.fuji-icom.co.jp
ドコモショップ新潟店　新潟市中央区上大川前通7番町1230-7 ストークビル鏡橋1F　TEL：025-224-1555
ドコモショップ新潟南店　新潟市中央区上近江1-3-7　TEL：025-288-0053
ドコモショップ新潟東店　新潟市東区新松崎1-7-5　TEL：025-256-7522
ドコモショップ新潟中野山店　新潟市東区若葉町2-4-5　TEL：025-282-7752

会期　2021年10月12日（火）～11月3日（水・祝）
※「生誕130年 松岡讓」展に併催

主催　新潟日報社、にいがた文化の記憶館

企画展示3

「日本美術界の旋風児 尾竹竹坡」

概要

かつて明治後期の画壇で名をはせ、その後ほとんど埋もれてしまった日本画家の三兄弟がいます。新潟市に生まれた尾竹越堂、竹坡、国観です。とりわけ竹坡（1878～1936年）は、岡倉天心から「天才」とまで言われた画家でした。

「日本美術界の旋風児 尾竹竹坡」展覧会風景

富山で売薬版画の下絵画家として青年時代を過ごしたのち、日本画家を志して上京。明治・大正期の日本画壇で活躍しますが、岡倉天心が会長を務め、竹坡が入会した「国画玉成会」第1回展覧会の審査員選びが紛糾して退会。その後は文部省の美術行政を改革しようと国会議員に立候補しますが、落選。人気作家でありながらも波乱の人生を送りました。

本展では、今日も美術愛好家に人気のある作品や関連資料とともに尾竹竹坡を紹介します。

会期　2021年11月23日（火・祝）～2022年3月6日（日）

展示協力　新潟市潟東樋口記念美術館・新潟市潟東歴史民俗資料館、中島榮一氏、橋本博文氏

関連イベント

◎中島榮一氏による講演会「尾竹竹坡～作品の変遷」（8～9ページに詳細）

◎作品解説会　全3回

にいがた文化の記憶館 年間パスポート募集

年会費	法人1口5,000円／個人1口3,000円
会員期間	1年間（毎年4月から翌年3月まで）
特典	① 会員カードのご提示により常設展示、年間3～4回開催する当館主催の企画展示を何回でも自由観覧できます。 ② 当館会員カードのご提示で、県内の一部の施設の観覧料が割引となります。（本誌16~20ページのPASSマーク記載施設のみ適用）

ご入金方法（郵便振込）

◆ 口座名称
ニイガタブンカノキオクカン

◆ 口座記号番号
00510-8-108888

にいがた文化の記憶館 維持会募集

年会費	法人1口50,000円／個人1口5,000円
会員期間	1年間（毎年4月から翌年3月まで）
特典	① 1万円以上お申し込みいただいた方は、当館にてお名前を掲示いたします（希望者のみ）。 ② 会費は寄付扱いとなり、確定申告の際は税の優遇を受けることができます。

お問い合わせ／TEL. 025-250-7171（月曜休館、10:00~18:00）

にいがた文化の記憶館　2022年度の企画展示の予定

次のようなテーマで、企画展示を準備しています。

◎生誕130年　鷲尾雨工（仮称）
◎増村朴斎（仮称）
◎生誕110年　宮柊二（仮称）

＊企画展示名は仮称です。会期や事業の内容などは変更することがあります。
社会情勢の変化や新型コロナウイルスの感染状況の変化などにより、会期や開館時間などが変更することもございます。ご来館の際は、記憶館ホームページやFacebookなどで最新情報をご確認の上、ご来館くださいますようお願い申し上げます。

Fuji Creative Center
総合広告会社
株式会社
フジ・クリエイティブセンター
〒950-0993 新潟市中央区上所中3丁目11番8号
Tel.025-283-6000（代）
https://www.fuji-cc.co.jp

環境をサポートする
KIRAMEKI
株式会社きらめき
□本社 〒951-8528 新潟市中央区東堀前通6番町1061番地
TEL:025-228-7586 FAX:025-224-5034 http://www.kirameki.co.jp
□中越支店 □県央営業所 □上越営業所 □湯沢営業所
□東京支店 □下越支店 □東港営業所

イベント・講演会リポート

企画展示「日本映画初の女性脚本家 水島あやめ」関連イベント

無声映画『明け行く空』上映会

活動写真弁士・佐々木亜希子氏、映画伴奏者・永田雅代氏（ピアニスト）

講演「日本初の女流脚本家・少女小説作家 水島あやめ」

講師：因幡純雄氏（水島あやめ研究者）

2021年5月28日（金）メディアシップ2階日報ホール

ワクチン接種の予約が始まり、感染状況が落ち着き始めた5月末、久しぶりにイベントを開催しました。企画展示の関連事業として、水島あやめ脚本の無声映画『明け行く空』を活動写真弁士・佐々木亜希子氏の〝活弁（カツベン）〟とピアニスト・永田雅代氏の伴奏付きで上映、続いて評伝の著者・因幡純雄氏による講演会の二本立てで実施しました。

無声映画『明け行く空』上映

無声映画は19世紀後半の映画発明から1920代年後半にトーキー（有声）映画が実用化されるまでの約40年間、常設活動写真館などで上映されました。俳優のパントマイム演技と字幕によるセリフ、ト書きが入った映画です。日本では活動写真弁士のナレーションが付くのが特徴で、世界では類をみません。

活弁の佐々木氏

ここでは上映会の一部を舞台脚本風に、ト書きを入れて、再現しました。◇

映像と活弁が一体に 母娘の情愛がひしひしと

ピアノ伴奏の永田氏

佐々木亜希子氏と永田雅代氏が登場。佐々木氏による口上が始まる。

本日は賑々しくご来場の栄を賜り、活動弁士・佐々木亜希子、厚く厚く御礼を申上げます。ただいまよりご覧供しまするは、文明開化はエレキ応用、物が動くという活動大写真。内容は言わぬが花の玉手箱、映る画面の展開に伴いまして熱演また熱演。拍手ご喝さいのうちにご高覧のほどお願い申し上げます。

佐々木氏、挨拶したのち、ピアニストの永田氏を紹介する。

二人による、水島あやめ紹介動画「水島あやめ物語」の上映が始まる。

動画の上映が終わると、水島あやめ脚本映画「明け行く空」を紹介する。

永田氏、ピアノとピアニカで伴奏する。

いつの世も子を思う母の愛情は変わらぬもの。自分の子は目に入れても痛くないほどかわいいものでございます。とある良家の嫁恭子も生まれたばかりの娘が愛おしくて仕方がありません。嫁いでまだ幾とせも経たないのに夫に先立たれた恭子はこの幼子玲子が生甲斐でありました。恭子、演ずるは女優・川田芳子（新潟市出身）。

『明け行く空』の上映（左・活弁、右・ピアノ伴奏）

義理の父親純造と玲子と三人の暮らしはしかし、純造の事業が失敗したこともあって、恭子の親にしてみれば納得のゆかぬものでした。

（恭子の実父、登場）「どうかご理解ください。恭子が不憫で」

（恭子の実父に応える純造）「つまりわしの銀行が破綻したんで、急に離縁しようというのだなあ」

（恭子の実父）「いやあそういうわけ

遠藤実記念館「実唱館」（じっしょうかん）

開館時間　10：00～17：00

休館日　火・水曜日（祝日は開館、翌日休）、年末年始、夏季休暇

所在地　〒953-0012　新潟市西蒲区越前浜6913-1

TEL　0256-77-2777　FAX　0256-77-2776

ホームページ http://www.minoru-endo.com/

コニカミノルタNC株式会社

本社　〒950-0141　新潟市江南区亀田工業団地1-2-13

TEL (025)383-3000　FAX (025)383-3001

URL http://www.konicaminoltanc.jp

富山支店／長岡営業所／新発田営業所／上越サービスステーション

業務内容：コニカミノルタ複合機 bizhub・医療機器・商用印刷機の販売及び保守

イベント機器のレンタル　他

でもありますまいが、なにしろご主人は亡くなるし、歳も若いものですから。この先ずっと一人でおくのも、親心として」

（純造）「よろしい。もう聞く必要はない、恭子をお望みどおり直ぐに離縁いたします」

◇

水島あやめが入社した松竹キネマ蒲田撮影所は女性向けメロドラマ、特に母ものがヒットしたため、あやめは母娘ものを中心に書いていました。本作も死別で嫁ぎ先から離縁され、可愛いわが娘と生き別れた恭子が、時を経てわが娘玲子と再会するまでの物語。母恋し娘愛しの情愛がひしひしと伝わり、スクリーンの画面とカツベンが一体感となって観客は吸い込まれるよう。笑いあり涙ありの無声映画は活動写真弁士の軽妙な語りとピアノ伴奏が付いたことで、感情豊かな映画になりました。

因幡純雄氏　講演

続いて、評伝『日本初の女流脚本家・少女小説作家水島あやめの生涯』を書いた因幡純雄氏による講演会です。

因幡純雄氏

◇

『明け行く空』の公開翌年、26歳の水島あやめは脚本家の収入だけで母子二人で暮らしていました。

『明け行く空』はあやめ25歳、斎藤寅次郎監督24歳の作品で、新潟市出身の女優・川田芳子、涙の名子役・高尾光子が出演した母娘ものです。

帝大卒をしのぐ高給取り
脚本20本、あこがれの職業婦人

1929（昭和4）年5月に封切りされました。

大正から昭和初期の映画産業は成長著しく、20代の若者も飛躍できました。この頃が脚本家・水島あやめの絶頂期です。経済的、社会的な基盤を作りました。20本の映画化実績を持つ人気女性脚本家に指導や弟子入りを希望する若者が多くいました。水島は、誰もが憧れる映画界の職業婦人。

因幡純雄氏講演会

給料も当時の帝大卒よりも多く貰っていました。

本作の制作談によると、監督に書き直しを依頼された水島は、筆が進まないなか、注文通りラストを書き直したそうです。斎藤監督は徹頭徹尾のドタバタ喜劇で喜劇王と呼ばれていました。しかし本作はギャグが抑制され、新派調と喜劇の調和への気配りさえ感じられます。当時、松竹は城戸四郎撮影所長を中心に新派調映画からユーモア、スピード、テンポ、ペーソスなどを盛り込んだ蒲田調映画への転換に取り組んでいました。監督と水島は何度も『明け行く空』の書き直しを検討、出来たのがラストの追っかけシーンでした。

当時の蒲田撮影所の人気は相当のものでした。『明け行く空』が公開された昭和4年は撮影所開設から10年目で、蒲田映画が黄金時代を築いた年です。多様なジャンルの話題作が作られ、蒲田調映画が一世に開花。映画の主題歌だった「蒲田行進曲」はのちに撮影所所歌として愛唱され、駅前の東口商店街は連日縁日の様な賑わいでした。同年、撮影所の六車修副所長が蒲田町議選に立候補しトップ当選。蒲田は名実ともにキネマのまち、東洋のハリウッドとして黄金期を迎えました。監督、俳優、製作本数、人気の全てにおいて日本一の撮影所でした。

一方、城戸所長が欧米視察から帰国してトーキー映画製作に動き始めたのもこの年でした。

◇

水島あやめは松竹映画がトーキー化され、撮影所が蒲田から大船へ移転する昭和10年に退社。子ども時代に憧れた少女小説家に転身して、スクリーンから離れ誌面を中心に活躍しました。講演会では、脚本家、小説家としての水島あやめについても詳しく解説いただきました。

当日の鑑賞者は95人で、主演川田芳子が大叔母にあたる新潟市の日本舞踊家（市山流）市山七十郎さんにもご参加いただきました。

（文責：石垣雅美）

講演会リポート

企画展示「日本美術界の旋風児　尾竹竹坡」関連イベント

講演会「尾竹竹坡～作品の変遷」

講師：中島榮一氏（前新潟市潟東樋口記念美術館・潟東歴史民俗資料館 館長）

2022年1月10日（月・祝）メディアシップ2階日報ホール

企画「日本美術界の旋風児　尾竹竹坡」展の関連事業として、1月10日メディアシップ日報ホールで、尾竹三兄弟の作品展を幾度も重ねてきた新潟市潟東樋口記念美術館・潟東歴史民俗資料館の中島榮一前館長（写真上）より上記のテーマで、竹坡の少年時代から晩年までの作品の特色や変遷について、たくさんの作品映像を提示して詳しい解説をしていただきました。聴講者は90人。要旨を紹介します。

天心と対立後も最高賞を連発

竹坡は、染色業を営むかたわら画家でもあった父尾竹倉松と母イヨの間に生まれ、新潟東堀で少年時代を過ごした。家は貧しく長兄には越堂、弟には國観がいた（**図1**）。三兄弟とも画才に優れて、兄越堂は新潟絵入新聞の挿絵を描いていたが、のち置き薬で有名な富山に移住し、売薬版画の下絵師として活躍した。

竹坡、國観の兄弟は自作の絵を新潟の朝市などで販売して家計を助けていた。竹坡12歳の作品が残っている。その後、越堂を頼って兄弟は富山に行き下絵描きを手伝い浮世絵の手法を学んだ。さらに兄弟は上京し、18歳竹坡は川端玉章の下に入門そして同年、小学校教科書の挿絵を手がけた。

日本絵画協会や日本美術院連合共進会へ出品・入賞を重ねていた頃の1907（明治40）年、岡倉天心から日本美術院研究所（茨城県五浦）に招待された。横山大観、菱田春草、下村観山、木村武山に次ぐ人材として今村紫紅、安田靫彦、高橋広湖とともに実力を認められ期待された。これ以前、菱田春草や大観が編み出した色彩の濃淡で描く〝朦朧体〟の手法も学び、採りいれた《秋景山水》がそれである（**図2**）。

しかし翌年、国画玉成会の審査員人事をめぐり天心と対立、退会した。天心の考えは①古代作画法の復興②世界的趣味の調和（陰影など西洋絵画の手法を採用）③現在絵画の発達④画道の大成は手法のみではなく品性及び学術上の修養を怠らない―というものだった。学術上と言っても國観の言うところでは、貧しさのため竹坡は小学校も満足に通えなかったという。

退会した翌年1909（明治42）年第3回文展（文部省美術展覧会）で竹坡の《茸狩》が三等賞、1910（明治43）年第4回文展で《おとづれ》が二等賞（＝最高賞）、その翌年も《水》で二等賞と絶頂期を迎えた。竹坡は歴史画では平安時代を主な題材としており、戦国時代などの争い事の作品は見

図1　尾竹竹坡（左）、越堂（中）、國観（右）の三兄弟　大正初期

図2　尾竹竹坡《秋景山水》制作年不詳（明治30年代～大正前半）絹本彩色・軸装　個人蔵

られない。作品の特色は①美しい線（線の肥痩が自在）②輪郭線を多用しない色面構成（西洋画的手法の遠近感など）③淡い色彩で配色に工夫④植物、衣服、動物などは細密描写―などと各流派を勉強し、西洋絵画にも目を向けていた。

《おとづれ》は同系色で植物を描き分け、貴族の着物の滑らかな曲線が際立っている。しかし竹坡、國観とも屏風など大形作品を出品するため、展示場の場所ふさぎとなり、周囲に迷惑をかけた面もあった。筆は速いし人気絶頂で大阪商人に付け込まれたのか、缶詰状態で絵を描かされ大阪高島屋で《もうで》など百幅画展を開くほどの人気振りだった。

1913（大正2）年の第7回文展では出品作の大きさに制限が付けられ、竹坡、國観ら尾竹一門は全員落選させられた。第8回文展では《うららか》が入選にとどまる一方、新たな技法に挑戦して日本橋白木屋で「尾竹竹坡試作展」を開く。しかし文展の在り方に不満を抱き美術界の刷新を訴えて1915（大正4）年衆議院選挙に立候補したが落選、多額の借金を背負った。返済のため乱作・大量生産となり、以前の作品の焼き直しで創造性に欠けてしまった。

作品《角兵衛獅子》（図3）は親方に叱られたのか角兵衛獅子の子供の不安な心情がにじみ出ており、誰にも辛い時代があったことを思い出させる画力の高さを表している。《田園風景》は西洋の印象派の影響を受けて、陰影をつけている。竹坡は大正3年「尾竹竹坡試作展」、同8年「八火社」の結成を通して新たな挑戦を行う。その頃の作品が《天舞》であろう。

大作、速描、多作の才能を疎まれる

図3　尾竹竹坡《角兵衛獅子》制作年不詳（明治30年代～大正前半）絹本彩色・軸装　個人蔵

作品は約300点。表装も仕上がっていた。画室に泥のついたまま野菜や魚、鳥などを運び込み描写、これが最後の仕事となった」と述べている。

新潟県では新潟市潟東樋口記念美術館・歴史民俗資料館、県立近代美術館や雪梁舎美術館、新潟大学旭町学術資料展示館等で尾竹兄弟の展覧会が催され、2018年には富山県水墨美術館でも開かれた。竹坡は帰郷するごとに地元民から絵を求められて描き残しており、市内には個人で所蔵している人も少なくない。再評価されるべき画家である。

1936（昭和11）年に竹坡が気管支喘息で死去した。記憶館で展示された《鰹》（図4）は、死後画室から多くの作品が発見されたうちの一点だ。写実的で細密な描写、淡い色彩でまるで生きているようだ。この作品の箱書きには國観の筆で「中兄竹坡生涯中最高傑出したる物なり」と記されている。このほか《筍》もある。國観は「4、5年前から竹坡は画室に閉じこもり、澤田ふじ子著『無頼の絵師』の一節で「尾竹竹坡は、岡倉天心や横山大観の意に添わなかったのと、その画才を疎まれ、屏風《おとづれ》などが国立近代美術館に蔵されながら、その画業はなお日本絵画史から抹殺されてしまっている」と指摘している。

（文責：武藤　斌）

図4　尾竹竹坡《鰹》昭和10（1935）年頃
絹本彩色・軸装　個人蔵

NST News タッチ
NST 月～金曜 午後6時09分放送

多彩な物流システムとネットワークで確かなサービスをご提供致します。
中越運送株式会社
新潟市中央区美咲町 1-23-26
TEL：025-283-0019（代）
http://www.chuetsu-group.co.jp

松岡譲展に寄せて
半藤末利子さん インタビュー

（新潟日報社提供）

半藤 末利子（はんどう まりこ）さん　略歴

1935年東京都生まれ。エッセイスト、東京都新宿区立漱石山房記念館名誉館長。44年に長岡市に疎開、長岡高卒業まで暮らす。著書に「夏目家の糠みそ」「老後に乾杯！　ズッコケ夫婦の奮闘努力」「硝子戸のうちそと」など。東京都世田谷区在住。

長岡市出身の作家松岡譲（1891～1969年）の生誕130年を記念した企画展が、新潟市の「にいがた文化の記憶館」で2021年7月27日から11月3日まで開かれた。夏目漱石の長女筆子と松岡の四女でエッセイストの半藤末利子さん（86）に、企画展に寄せる思いや父の素顔について聞いた。（聞き手　新潟日報社報道部長・小原広紀）

―新潟市での松岡譲展をどう受け止めていますか。

「すごくありがたい。もっと協力したかったが、亭主（歴史研究家で作家の半藤一利さん）が1月に亡くなり、忙しくて講演や寄稿ができなかった」

「そもそも父について書くことが、なかなかできない。要点を押さえて客観的に書こうとしても、どうしても感情的になる。あれもこれも、と書きたいことがあふれて、まとまらない」

―夫の一利さんについては多くのエピソードを雑誌や本に書いています。

「何でもいいから毎日書いた方がいいと亭主にアドバイスされ、亭主のことを日記のように記しておいた。何日に転んで骨折して、いつ入院して、と。それで書くことができた。でも父の場合は、はるか前に死んだせいもあるが、客観的にみるのが難しい」

―今回の企画展で、どういうことが伝わってほしいと思いますか。

「父はかわいそうな人だ。世間に誤解され、書き続けられず寡作に終わった。『書かないと、書けなくなるもんだね』と言っていた。自分でも実力が落ちたのが分かったのだろう」

「亭主（一利さん）は多くの作品を書き、自分の力で花を開かせた。父はそうではないので、私が書き残したいと思っているが、書けずにいる。本当は、亭主のことなんて書いている場合じゃないんだけど（笑）」

―松岡の作品でお薦めは。

「『敦煌物語』。スケールが大きくて好きだ。『憂鬱な愛人』も結婚に至る事実を冷静に書いている。父や母の人格を否定した久米正雄とは違う」

―筆子に振られた久米は小説「破船」で松岡夫妻を悪役に仕立てました。

「父には、それをはねのけて頑張ってほしかったけど。でも世の中が敵になってしまい、書く意欲が失われた。一番上の姉は『あんな家の子と遊んではいけません』と言われて友人を遠ざけられたそうだ。松岡は悪人、みんなそう思っていた」

―久米以外の漱石の弟子仲間とも溝が

大光銀行

〒940-8651

長岡市大手通１丁目５番地６

http://www.taikobank.jp/

大光銀行　検索

いままでよりこれから

帝京長岡高等学校

TEIKYO

〒940-0044　新潟県長岡市住吉 3-9-1

TEL　0258-36-4800 / FAX　0258-36-4715

https://www.teikyo-nagaoka.ed.jp

できました。

「芥川龍之介は流行作家になり、菊池寛は文藝春秋を興して文学界の大御所になって、父を排斥した。原因は焼きもちだ。先生の娘を射止めて、松岡はいい気になっている。勝手にそう思い、久米に同情した。父は人を蹴落として結婚したわけではないのに」

「ただ、父母は久米の悪口を全く言わなかった。『調子に乗る人なんだ、根は悪くないんだけど』ぐらいで。すごく冷静で公平。私たち子どもに憎しみや恨みを抱かせないようにした」

―松岡は口数も少なかったそうですね。

「長岡中学以来の友人だった堀口大学も指摘したが、不器用で実直で、寡黙な人だった。ぺらぺら調子いいことを言わないし、弁解もしない。母はそこが気に入ったのかもしれない。父にほれた母は絶食するほど思い詰めた。先生（漱石）の娘にそんな風に愛されたら、父はかえってつらかっただろう。死なせるわけにはいかないし」

「私自身は亭主をそんなに愛してなかったけど、これほど私を愛してくれる人はもう現れないと思ったから結婚した。母にそう話したら、『私は嫌だわ、そんなの』とかなりの剣幕で言われた。母は父に苦労させられたが、本当に愛していた」

―太平洋戦争中に一家で疎開した後、松岡夫妻は再び上京することなく長岡で暮らしました。

「上京するお金がなかった。戦後すぐは父もまだ有名で、多くの編集者が執筆依頼にやってきた。『山本五十六を書いて』という話もあった。でも父は頑として書かなかった。疎開のとき、東京から大きな貨車を2台借り切って家財や美術品などを持っていったので、それを売って食べていた。最後は何もなくなった」

―松岡は晩年、漱石の作品や芸術品などを鑑定していました。

「結婚後にしばらく夏目家で暮らし、展覧会の主催などをしていたので目が肥えた。本物を見極める力、センスはあったのだろう。長岡の火焔土器を見いだして五輪の聖火台にしようという運動もやった。でも作家なのだから、小説を書かないと駄目だ。母は暮らしたことのない雪国でよく耐えたと思う。我慢強くて偉い人だった」

―両親の言動で覚えている場面は。

「私は結婚してからもよく長岡に帰省した。ある日、東京に戻る私に『今度いつ帰ってくる？』と父が珍しく聞いた。帰省をとても楽しみに待っていたんだろう。でも、私は『さあ、分かんない』と冷たく言って立ち去った。小説を書かない父への不満もあって。その少し後で、父は死んでしまった。あのときの口調が忘れられない」

「母はいつも不機嫌だった。穏やかな人だけど、金回りが悪くなって生活が大変だったから。よく停電して、ろうそくで過ごしたことを覚えている」

―オンラインゲーム「文豪とアルケミスト」で松岡が取り上げられ、企画展では若い女性の姿も目立ちます。

「父に関心を寄せてくれる人が一人でも増えるのはうれしい。一時筆を折り、寡作に終わった父は『忘れ去られた作家』だった。そんな彼の人生や作品を少しでも知ってもらいたい」

（編集担当より）本稿は、企画展示「生誕130年 松岡譲」解説冊子からの再掲です。新潟日報社報道部長・小原広紀氏のご協力により、半藤末利子氏（松岡譲四女・エッセイスト）から同展開催に寄せてインタビューにお答えいただきました。

松岡譲、筆子夫妻と半藤末利子さん（中央）。
末利子さんは度々、実家に帰省していた＝1960年ごろ、長岡市

ニッポンの朝が見える。
THE TIME,
月－金
あさ5:20－8:00
BSN 70th

株式会社タケショー
TAKESHO FOOD & INGREDIENTS INC.
「おいしさを科学する」

文化功労者パネルを追加しました

当館では、2019年から2021年にかけて文化功労者に選ばれた、佐藤忠男氏、加藤澤男氏、鈴木厚人氏の業績を紹介するパネルを展示室の受章者コーナーに追加しました。

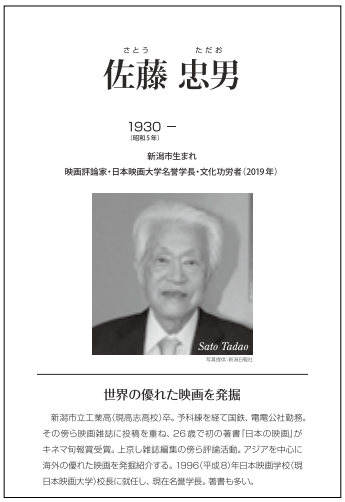
2019年文化功労者 佐藤 忠男

新潟市生まれ 1930～

映画評論家・日本映画大学名誉学長

世界の優れた映画を発掘

新潟市立工業高（現高志高校）卒。予科練を経て国鉄、電電公社勤務。その傍ら映画雑誌に投稿を重ね、26歳で初の著書『日本の映画』がキネマ旬報賞受賞。上京し雑誌編集の傍ら評論活動。アジアを中心に海外の優れた映画を発掘紹介する。1996（平成8）年日本映画学校（現日本映画大学）校長に就任し、現在名誉学長。著書も多い。


佐藤 忠男（さとう ただお）

1930 －（昭和5年）

新潟市生まれ

映画評論家・日本映画大学名誉学長・文化功労者（2019年）

Sato Tadao

写真提供：新潟日報社

世界の優れた映画を発掘

新潟市立工業高（現高志高校）卒。予科練を経て国鉄、電電公社勤務。その傍ら映画雑誌に投稿を重ね、26歳で初の著書『日本の映画』がキネマ旬報賞受賞。上京し雑誌編集の傍ら評論活動。アジアを中心に海外の優れた映画を発掘紹介する。1996（平成8）年日本映画学校（現日本映画大学）校長に就任し、現在名誉学長。著書も多い。

佐藤忠男氏は、2021年11月2日に当館を訪れ、こちらの紹介パネルなどをご覧になりました。その時の様子が、翌日の新潟日報に掲載されました。

新潟出身の映画評論家

佐藤忠男さんが来県

文化の記憶館を訪問 新潟

新潟市出身の映画評論家、佐藤忠男さん（91）が2日、同市中央区の新潟日報メディアシップを訪ね、にいがた文化の記憶館（仮称）を見た。

佐藤さんは東京在住。アジア映画研究の第一人者で、映画を通した国際交流などに貢献し、2019年度の文化功労者に選ばれた。20年7月まで本紙芸能面に映画評などを連載した。

ウイルス禍などで延期していた、19年に死去した妻の久子さんの納骨と三回忌のため、約5年ぶりに来県した。にいがた文化の記憶館には、「日本の文化をになった新潟人」などのコーナーで佐藤さんを紹介している縁で訪れた。

公開中の安吾の手紙は、安吾の長兄で新潟日報社長だった献吉に宛て、敗戦直後に書かれた3通。19年に見つかり、新潟日報社が入手した。

佐藤さんは興味深そうに展示に見入り、「何度か来館しているが、初めて見るものが多い。何と言ってもここ（新潟）は私の古里。こうした（価値ある）展示をする施設があるのはうれしい」と語った。

「にいがた文化の記憶館」の展示を見る佐藤忠男さん＝2日、新潟市中央区

新潟日報 2021年11月3日付 29面 新潟日報社提供

2020年文化功労者 加藤 澤男

五泉市生まれ 1946～

オリンピック体操選手

美しい演技、金メダル8個に輝く

地元中学の体操部入部が始まり。1968年メキシコ、72年ミュンヘン、76年モントリオールのオリンピック3大会で日本人最多の金8個を獲得。ほかに銀3個、銅1個で、合計12個のメダリストとなり、美しい演技で体操ニッポンをリードした。国際体操連盟技術副委員長を歴任。筑波大学と白鷗大学の名誉教授。専門は「運動学」。

加藤 澤男（かとう さわお）

1946 －（昭和21年）

五泉市生まれ

オリンピック体操選手・文化功労者（2020年）

Kato Sawao

写真提供：新潟日報社

美しい演技、金メダル8個に輝く

地元中学の体操部入部が始まり。1968年メキシコ、72年ミュンヘン、76年モントリオールのオリンピック3大会で日本人最多の金8個を獲得。ほかに銀3個、銅1個で、合計12個のメダリストとなり、美しい演技で体操ニッポンをリードした。国際体操連盟技術副委員長を歴任。筑波大学と白鷗大学の名誉教授。専門は「運動学」。

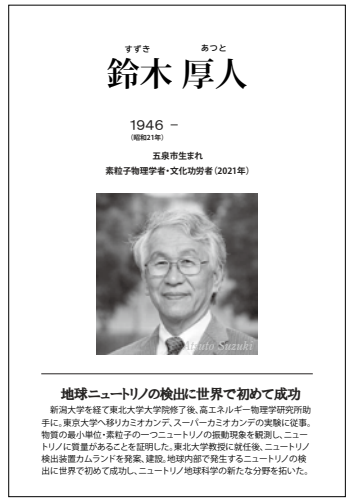
2021年文化功労者 鈴木 厚人

五泉市生まれ 1946～

素粒子物理学者

地球ニュートリノの検出に世界で初めて成功

新潟大学を経て東北大学大学院修了後、高エネルギー物理学研究所助手に。東京大学へ移りカミオカンデ、スーパーカミオカンデの実験に従事。物質の最小単位・素粒子の一つニュートリノの振動現象を観測し、ニュートリノに質量があることを証明した。東北大学教授に就任後、ニュートリノ検出装置カムランドを発案、建設。地球内部で発生するニュートリノの検出に世界で初めて成功し、ニュートリノ地球科学の新たな分野を拓いた。


鈴木 厚人（すずき あつと）

1946 －（昭和21年）

五泉市生まれ

素粒子物理学者・文化功労者（2021年）

Suzuki Atsuto

写真提供：新潟日報社

地球ニュートリノの検出に世界で初めて成功

新潟大学を経て東北大学大学院修了後、高エネルギー物理学研究所助手に。東京大学へ移りカミオカンデ、スーパーカミオカンデの実験に従事。物質の最小単位・素粒子の一つニュートリノの振動現象を観測し、ニュートリノに質量があることを証明した。東北大学教授に就任後、ニュートリノ検出装置カムランドを発案、建設。地球内部で発生するニュートリノの検出に世界で初めて成功し、ニュートリノ地球科学の新たな分野を拓いた。

新潟税理士法人 深滝合同事務所

代表社員（税理士） 深滝 信夫
所長 （税理士） 磯部 利行
副所長 （税理士） 上田 英明
副所長 （税理士） 根本 昌幸
社会保険労務士 桑野 光洋

■公益認定・移行申請手続支援業務
■指定管理者申請手続支援業務
■法人税・所得税・相続税・各種会計指導・適正税制・公益法人会計・税務申告・各種税金申告相談等
■経営計画・資金計画・経営指導・生命保険・損害保険等

〒950-2024
新潟市西区小新西3丁目15番7号
TEL：025-267-4843 FAX：025-265-3314
URL：https://niigata-zeirishi.tkcnf.com/

ノの振動現象を観測し、ニュートリノに質量があることを証明した。東北大学教授に就任後、ニュートリノ検出装置カムランドを発案、建設。地球内部で発生するニュートリノの検出に世界で初めて成功し、ニュートリノ地球科学の新たな研究分野を拓いた。

来館者の声

今年度開催した企画展示および関連イベントにお寄せいただいた声を一部紹介します。

企画展示「日本映画初の女性脚本家　水島あやめ」

・今回水島あやめを取り上げてくださり、女性の活躍が発見されて大変うれしく思いました。

・生まれから仕事での活躍まで、水島あやめの生涯を映像や資料で見ることができてよかったです。

無声映画『明け行く空』上映会（水島あやめ展　関連イベント）

・無声映画を初めて見ました。くすっと笑ったり、涙があふれたり…語り口調のおもしろさにとても楽しませてもらいました。弁士、ピアニストの方々、長時間お疲れさまでした。

企画展示「生誕130年 松岡譲」

・量的にも内容的にもとても充実していて満足です。校歌を手がけていたこと、坂口安吾と交流があったことなど、初めて知ることが出来、とても嬉しく、驚きでした。

・漱石の令名のかげで生きた傑人を豊富な資料展示によって紹介―すぐれた企画に敬意を表します。

講演会「尾竹竹坡～作品の変遷」（尾竹竹坡展　関連講演会）

・竹坡の作品の変遷を詳しく話して頂き、興味深かった。今回のお話で、作者の人となりや作品の背景に興味が湧きました。

・竹坡のやわらかな色使いがとても好きになりました。参考資料が簡潔にまとまっていて、わかりやすかったです。

文化人似顔絵パンフレットの紹介

『みんなで伝えようにいがた文化の記憶』文化人のパンフレットは2021年6月に、県内の新中学1年生に無料配布しました。製作には本年も**日本教育公務員弘済会新潟支部**の助成を受けました。ありがとうございます。当館では、児童たちに先人の偉業などを知って、ふるさとに誇りを持ってもらうことを願って活動しています。

2022年版は昨年秋、新たに文化功労者に選ばれた鈴木厚人氏（素粒子物理学者・新潟市出身）を追加して全117人を掲載します。似顔絵パンフレットは新中学1年生のほか来館者にも配布します。

～にいがた文化の記憶館を応援します～　（2021年度法人パスポート会員、維持会員、及び協力企業　＊50音順）

稲田清掃工業㈱、越後札紙㈱、㈱NST新潟総合テレビ、岡三にいがた証券㈱、グリーン産業㈱、クリエイティブ・サポート㈱、㈱コム、セコム上信越㈱、㈱第四北越銀行、田村紙商事㈱、敦井産業㈱、長岡造形大学、新潟縣信用組合、新潟綜合警備保障㈱、新潟鉄道荷物㈱、㈱新潟日報サービスネット、㈱新潟日報社、（一財）新潟日報美術振興財団、新潟プレハブ工業㈱、野村證券㈱　新潟支店、八海醸造㈱、（公財）ビー・エス・エヌ教育文化振興基金、㈱東日本福祉経営サービス、新潟税理士法人　深滝合同事務所、福田道路㈱、㈱ブルボン

住まいを通じて生涯のおつきあい
MISAWA ミサワホーム北越
〒951-8533 新潟市中央区関新2-1-53
TEL025-232-3330 http://hokuetsu.misawa.co.jp/

学校法人 新潟青陵学園
新潟青陵大学　新潟青陵大学短期大学部
◆看護学部　◆福祉心理学部　◇人間総合学科　◇幼児教育学科
〒951-8121　新潟市中央区水道町1丁目5939番地
TEL：(025) 266-0127（代表）
E-mail：koho@n-seiryo.ac.jp
URL：http://www.n-seiryo.ac.jp/
新潟青陵高等学校　新潟青陵幼稚園

「学びの回廊」づくりを目指して
「にいがた文化ネットワーク協議会」のご案内

新潟県内にはたくさんの文化人顕彰館があり、それらは広大な範囲に及んでいます。それは新潟県が、近現代の日本文化発展に貢献した多くの人材を輩出してきたことの証でもあります。にいがた文化の記憶館では、新潟人が持つ文化力を後世に伝えるため、そうした文化施設や団体と連携しながら、県内に「学びの回廊」をつくることを目指して「にいがた文化ネットワーク協議会」を立ち上げて活動してきました。

２０２１年10月11日（月）、５回目の情報交換会を開催し、県内の顕彰館・団体や県市町村から６名が参加しました（会場：新潟日報メディアシップ６階ナレッジルーム）。新型感染症下における取り組みや、県内顕彰施設及び団体間での協力体制について、意見交換を行いました。

2021年10月11日に開かれた
にいがた文化ネットワーク協議会

巻菱湖記念時代館
磯島瑛俊氏が解説

顕彰文化人の解説会シリーズ第１回として新潟市の巻菱湖記念時代館顧問（前館主）の磯島瑛俊氏＝**写真右**＝より２０２２年１月15日に「巻菱湖と浮世絵～化政文化の潮流から」と題してメディアシップナレッジルームで講演していただきました。30人が聴講しました。

磯島氏は巻菱湖の業績と出会い、全国に散在する菱湖の書碑を訪ね歩いた自らの人生を語りました。そのうえで弟子１万人を育て「幕末の三筆」と賞賛された菱湖が生きた江戸期文化文政時代の芸術豊かな潮流のなかではぐくまれた書（複製品）や資料をふんだんに紹介しながら２時間解説されました。

（解説要旨は次号）

新潟日報事業社

●自費出版・記念誌・社史 承ります。

編集者が直接ご相談に応じます。お問い合わせはお気軽に！

〒950-8546 新潟市中央区万代3丁目1番1号 メディアシップ14階
TEL.025-383-8020（出版部直通） http://www.nnj.net.co.jp

會津八一が愛した新聞 新潟日報

わかともよ
よきふみつつれ
ふるさとの
みつたのあせに
よむひとのため

會津八一先生が、郷土の文化振興のため、新潟日報社同人を鼓舞しようと詠んだ歌

新潟日報社
本社 新潟市中央区万代３－１－１
電話 025（385）7111

新潟日報 ニュースも読める情報紙
あなたの
まちの
Otona
おとなプラス
新潟日報朝刊にプラス 1日約30円（月900円/税込）

新潟日報 電子版
購読料にプラス 330円（税込）
詳しくは 新潟日報 電子版 まで www.niigata-nippo.co.jp

～「にいがた文化ネットワーク協議会」参加館の取り組みを紹介します～

上越市前島密記念博物館（前島記念館）

前島記念館　館長　利根川　文男

日本近代化の父　前島密
郵便から新聞、貯金、鉄道まで創設

「日本郵便の父」と称される前島密ですが、最近、前島密研究が進んで日本近代化のスタートである新しい時代のあり方を具体的に推し進めた人物が前島密であり「日本近代化の父」と表記したほうが相応しいのではないかと言われるようになった。

前島密
明治４年36歳頃

前島密は10歳で母と別れ医学の勉強のため12歳で一人江戸へ、少年前島密の早い独り立ちが始まりました。前島家の養子となり幕臣となります。駿河中泉奉行で徳川家臣を助けその働きぶりにより、明治２年明治政府の改正掛に出仕します。政府の改正掛は新しい日本を作るための政策立案、提言を行う部署である。この時、渋沢栄一と机を並べて議論して政策をリードしている。前島の最初の提言は慶応２年徳川慶喜将軍に「漢字御廃止之儀」を提出した。内容は難しい漢文をやめて簡単な「ひらがな」中心の国語にして教育をすることが必要と書かれている。その書き出しは「国家の基本は教育でありその教育は誰でも平等に受けなければならない」となっている。慶応３年には開成所の数学教授になり、その後、幾つかの役職を経て慶応４年大久保利通に江戸遷都を献言する。明治３年鉄道建設の営業収支の見積書「鉄道憶測」を作成、この鉄道憶測の作成により前島密の評価が高まり租税権正、駅逓権正を兼務する政策立案、実行する重要な役職に就くことになる。その後、以前からしたためていた新式郵便制度を立案する。この年鉄道建設費用調達でイギリスから金を借りる契約の破棄のため１年余りの出張によりイギリスで滞在した。その間イギリス社会を学びドイツの銅板の印刷技術を持ち帰った。帰国後明治５年に郵便報知新聞の創刊、明治７年読売新聞、明治12年に朝日新聞発行につなげた。明治６年には郵便料金の全国均一、明治８年には為替、郵便貯金をスタートさせた。明治９年に障害のある人達のために楽善会訓盲院の設立を主導、明治10年西南戦争のため大久保利通内務卿に代わって省務を見る。この年、日本で最初の勧業博覧会開催を主導、前島密の最も充実した全盛時代であったと思われる。

明治15年早稲田大学の前身である東京専門学校を開校、明治20年に学長に就任、教育にも力を注いだ。明治32年帝国教育国字改良部部長、明治33年には文部省国語調査委員長就任まで長きにわたり国字国語の改良に取り組んだ。明治21年には再度の逓信次官に就任し電話開業を官営でスタートさせた。また地元では直江津、新潟間の鉄道建設を取り組み、初代の北越鉄道社長に就任、関西鉄道社長、京釜鉄道理事など鉄道建設にも尽力した。晩年は貴族議員、日本海員掖済会理事長、日精生命保険社長など歴任した。明治43年75歳を契機にほとんどの役職を辞して九州各地を奥様と旅行された。大正８年横須賀市芦名の別邸で84歳の生涯を閉じた。上越市の前島記念館の横に立つ石碑は前島密が亡くなって３年後に建立された日本では最大級の高さ５メートル、重さ７トンである。表面は子爵渋沢栄一書、背面は坪内逍遥、市島謙吉、会津八一による撰文の４００字の功績が刻まれている。記念館前には銅像が立っている。記念館には２００点の史料が展示されており多岐にわたる業績を見ることができる。

前島記念館

新聞販売・折込広告総代理店・デリバリー業務受託・旅行代理店
株式会社 新潟日報サービスネット
〒950-1125 新潟市西区流通３丁目１－１
■代表・新聞販売　TEL025-233-3311　■折込広告　TEL025-233-3500
■旅行事業　TEL025-250-0300

HIROSE
株式会社 廣瀬　新潟市西区善久823 TEL.025-377-1500
https://www.n-hirose.co.jp

新潟県内の文化人顕彰施設・団体からのPR情報

佐渡、下越、中越、上越の市町村順、50音順に掲載。開館日、開館時間など詳細につきましては各所にお問い合わせください。各館の情報は、にいがた文化の記憶館ホームページ上でも紹介しています。

00 館名／団体名

顕彰している新潟ゆかりの文化人

PASS

住所

電話番号

PR情報

PASS …この館で「にいがた文化の記憶館パスポート」をご提示いただくと割引が受けられます。また、この館の「半券」を当館でご提示いただくと入館料を団体料金に割り引きします。

1 佐渡市立佐渡博物館

土田麦僊／佐渡ゆかりの人物

佐渡市八幡2041

0259（52）2447

佐渡の自然・歴史・文化を学べる総合博物館。7月下旬から重要無形民俗文化財に指定されている「佐渡の人形芝居」、10月から佐渡奉行所役人田中家所蔵の刀などを展示する「佐渡の刀剣展」をそれぞれ開催します。

2 佐渡歴史伝説館

佐々木象堂

佐渡市真野655番地

0259（55）2525

佐渡生まれの鋳金家で、各種展覧会でつねに上位の賞を獲得するとともに『瑞鳥』、『采花』は日本伝統工芸展最高賞を受け、蝋型鋳造技術部門で重要無形文化財保持者（人間国宝）に認定されました。その名作の数々をご覧頂けます。

3 平出修研究会

平出修

新潟市東区中野山4-2-19

090（1125）1058

新たな会の活動計画として「生誕地である東新潟エリアの地元の皆様との連携企画」の実施。合わせて講演会企画では「修と①与謝野鉄幹・晶子②石川啄木③森鴎外」を中心にしてまいります。2028年は平出修生誕150年です。

4 巻菱湖記念時代館

巻菱湖／館柳湾／亀田鵬斎／中沢雪城など

PASS

新潟市東区河渡庚296-33

080（4159）2581

今年度より新規の事業として、江戸期の浮世絵（錦絵）を複製・販売いたします。主に国立博物館所蔵の写楽・北斎・歌麿の作品100点程を中心に、越後・門出和紙に印刷をし提供いたします。詳しくは当館のホームページをご覧ください。

5 安吾 風の館

坂口安吾

新潟市中央区西大畑町5927番地9

025（222）3062

新潟市出身の作家、坂口安吾を顕彰するため、年3回の企画展を行っています。4月及び9月からの展示では、交友関係、取材旅行、作品からテーマをとり、12月からは遺愛品や初版本など安吾を紹介する展示を開催しています。

6 安吾の会

坂口安吾

新潟市中央区八千代2-1-1

新潟市民映画館シネ・ウインド内

025（243）5530

1987年10月20日発足。会報「安吾雑報」、研究誌「安吾探索ノート」発行。「新潟安吾忌」を主催するほか、読書会や街歩きを実施。「安吾生誕祭」企画・運営。読書会、定例会の日時・会場は直接お問い合わせください。

7 秋艸会

會津八一

新潟市中央区万代3-1-1

メディアシップ5階會津八一記念館内

025（282）7612

秋艸道人・會津八一を顕彰し文芸に触れる新潟市會津八一記念館友の会です。会報「秋艸」を年2回発行。記念館の企画展等を紹介し八一に関する投稿掲載など全国の会員を繋いでいます。11月21日（命日）には「秋艸道人忌」を主催。

8 全国良寛会

良寛

新潟市中央区南浜通2

北方文化博物館新潟分館内

025（222）2262

◎全国良寛会出雲崎大会を10月1日、2日、出雲崎町民体育館で開催します。初日は記念てい談、歓迎アトラクション等。2日目は良寛史跡めぐりを予定しています。同町の良寛堂建立100周年記念事業も企画しています。

9 敦井美術館

敦井榮吉

新潟市中央区東大通1-2-23 北陸ビル

025（247）3311

近・現代の日本画・陶芸を中心に、洋画や彫刻・木漆工芸など幅広い所蔵品による企画展を年4回開催しています。2022年度は、荻原井泉水の「奥の細道俳画展」、工芸では「近代漆芸名品展」などを予定しております。

10 新潟県立図書館

全般

新潟市中央区女池南3-1-2

025（284）6001

1915年の創立から収集してきた蔵書93万冊のうち、約13万冊が新潟県人関係資料を含む郷土資料です。当館ホームページで公開している越後佐渡デジタルライブラリーでは、貴重な郷土資料を画像でご覧いただけます。

11 新潟市 會津八一記念館

會津八一

新潟市中央区万代3-1-1
メディアシップ5階
025（282）7612

八一とゆかりの深い古美術写真の飛鳥園（奈良市）が開業100年を迎えるのを記念して、秋の特別展は八一と奈良の関係を写真と書で多面的に紹介します。春は、刊行予定の「八一名品50選」にちなむ文字通り所蔵名品展。

12 新潟市歴史博物館（みなとぴあ）

全般

PASS

新潟市中央区柳島町2-10
025（225）6111

企画展「にいがたの中世」では、新潟市に所在する資料を中心に、新潟市および新潟県の鎌倉時代から戦国時代までの歴史に関する書状、絵図、考古資料などを展示します。坂額御前や上杉謙信なども登場します。

13 新潟大学旭町学術資料展示館

中田瑞穂ほか

新潟市中央区旭町通2番町746
025（227）2260

第3代（現）萬代橋と同じ1929（昭4）年竣工の国登録有形文化財の館内で、新潟大学が学術研究を通して収集・蓄積した考古資料・標本類・実験器具などを常設展示するとともに、様々な分野の企画展も開催しています。（月・火休館）

14 新潟良寛会

良寛

新潟市中央区古町通4　考古堂ビル内
025（229）4058

◎良寛・貞心尼法要を4月6日（水）西堀・宗現寺にて開催。記念講演は良寛・貞心尼を慕う会・中村由紀子氏。
◎総会を4月24日（日）クロスパルにて開催。記念講演は十日町市・清龍寺ご住職・金山有紘師。
◆会員外の参加も歓迎いたします。

15 ふるまち良寛てまり庵

良寛

新潟市中央区古町通2-538
025（378）2202

国上山で山中独居の生活を送った良寛は、古町にも歩いて来ております。悟りをひらいた高僧の思想にふれると共に、国の重要文化財ともなった書や漢詩、和歌など良寛の生き様を学ぶ良い機会となる事でしょう。

16 北方文化博物館

伊藤家ゆかりの人物／その他

PASS

新潟市江南区沢海2-15-25
025（385）2001

越後随一の大地主、伊藤家の遺構を博物館として公開しています。1882年から8年をかけて建設された大邸宅、大広間から眺める池泉回遊式庭園など、新潟の四季とともに地域や地主の歴史、所蔵美術品を紹介しています。鎌倉時代の高僧・雪村友梅の墨蹟「梅花詩」（重要文化財）を所蔵。

17 吉田文庫・ちあきの会

吉田千秋

新潟市秋葉区大鹿624
0250（23）7070

琵琶湖周航の歌・原曲作者、吉田千秋の生家は通常非公開とさせて頂いておりますが、学校、コミ協等のみなさんの研修を受け入れております。ただ、建物、庭、遺品の維持管理のためご期待に沿えない場合もあります。

18 新潟市曽我・平澤記念館

曽我量深／平澤興

新潟市南区味方213番地1
025（373）6600

記念館では、旧味方村名誉村民「曽我量深（第17代大谷大学学長）」、「平澤興（第16代京都大学総長）」おふたりの愛用品や出版物他、功績を讃える遺品を展示しています。

19 雪梁舎美術館

新潟県ゆかりの美術家

新潟市西区山田451
025（377）1888

86畳敷きの展示室を有する美術館です。新潟県ゆかりの美術家の作品を収蔵し展示、マイセン磁器とシャガールの版画は常設展示しています。また美術育成を目的とした全国絵画公募展「フィレンツェ賞展」を毎年開催。2021年には新たな企画として「工芸2021」を開催しました。

20 越佐文人研究会

良寛・會津八一の周辺人物

新潟市西蒲区下山340-2
0256（88）5335

山田寒山、無為信寺徳龍、秋山郷ゆかりの文人顕彰を立案、11月中に25周年記念企画を準備しています。

21 遠藤実記念館 実唱館

遠藤実

新潟市西蒲区越前浜6913-1
0256（77）2777

「北国の春」「高校三年生」「雪椿」等々、五千曲余りを世に送り出した作曲家・遠藤実の足跡を展示した記念館。併設されているカラオケ喫茶では、カラオケも出来ます。見て・聴いて・歌える記念館です。

22 新潟市潟東樋口記念美術館 新潟市潟東歴史民俗資料館

赤塚不二夫／尾竹三兄弟／金子孝信

新潟市西蒲区三方92番地
0256（86）3444

多岐に渡る樋口顕嗣氏寄贈作品・郷土ゆかりの作家作品（赤塚不二夫・尾竹三兄弟・安宅安五郎・長谷川秋一郎・福富雪底他）・金子孝信作品・ありし日の鎧潟資料を展示しています。また、秋には特別展を開催する予定です。

23 市島邸

市島家ゆかりの人物
新発田市天王1563
0254（32）2555

市島邸資料館では、市島家の歴史を伝える企画展示を行っております。600坪に及ぶ県指定文化財の母屋と桜や約150本の梅の花・紫陽花・紅葉・雪景色など、四季を通して魅力的な回遊式庭園をお楽しみください。

24 刀剣伝承館 天田昭次記念館

PASS

天田昭次
新発田市月岡温泉827
0254（32）1121

人間国宝・故天田昭次氏が月岡の地で挑んだ、自家製鉄による独創的な刀剣製作。鍛刀技術の追求の結晶を収蔵しています。太刀、脇差、短刀など、一般的な刀剣のみならず、七支刀などの特殊な形状をした刀剣も展示しています。

25 蕗谷虹児記念館

PASS

蕗谷虹児
新発田市中央町4-11-7
0254（23）1013

蕗谷虹児は、新発田市の出身。大正から昭和にかけて活躍した挿絵画家・詩人です。日本画を学んでいた若き蕗谷虹児は、竹久夢二にその才能を見出され、挿絵画家としてデビュー。虹児の生涯を、戦前戦後パリ時代までを代表作品で紹介。

26 燕市 長善館史料館

鈴木文臺／鈴木虎雄／長善館ゆかりの人物
燕市粟生津97番地
0256（93）5400

長善館は、1833年から1912年までの80年間に1000人以上の人材を輩出した私塾です。館内には、塾の歩みや特色ある教育内容、卒業生の業績等を紹介しています。文化勲章を受章した鈴木虎雄博士の漢詩や遺品なども展示しています。

27 燕市分水良寛史料館

良寛
燕市上諏訪9の9
0256（97）2428

良寛書の中でも珠玉の名品といわれる国・県指定文化財の作品を春、秋の二回特別展として公開し、県内外の多くの人々から良寛芸術の真髄に触れてもらい、良寛を支えた地域の人と文化風土を再認識し、学習する場とします。

28 阿賀野市立吉田東伍記念博物館

PASS

吉田東伍
阿賀野市保田1725-1
0250（68）1200

吉田東伍は日本全土の地名を網羅する『大日本地名辞書』を独力で編さんした歴史地理学のパイオニアです。彼はまた、世阿弥の伝書を発見し、能楽界に画期的貢献をするなど、日本文学史上ひときわ異彩を放つ野人学者でした。

29 春城会

市島春城
阿賀野市山口町2-3-25

春城生誕160年記念特別事業、胸像の製作・建立も二年目を迎えました。経費2百万円は会員の拠金と有志の寄付金。来年9月の竣工に向け順調に進捗しています。
春城の顕彰と情報発信のモニュメントになればと思っています。

30 国指定重要文化財「渡邉邸」

渡邉萬寿太郎
関川村下関904
0254（64）1002

渡邉家11代当主の渡邉萬寿太郎は、現在の六三三制学校制度の礎となる「関谷学園」の創立に尽力しました。旧関谷村長として、江戸初期から続く渡邉家の「家の掟」に基づき、地域振興・文化発展に貢献しました。

31 三条市歴史民俗産業資料館

岩田正巳／渡邉義雄
三条市本町3-1-4
0256（33）4446

当館は、昭和10年建設の旧武徳殿（武道場）を利用した日本でも珍しい国登録有形文化財の資料館です。三条市の歴史や文化、産業を和洋折衷の建造物とともに学ぶことができます。是非お越しください。

32 諸橋轍次記念館

諸橋轍次
三条市庭月434-1
0256（47）2208

世界的な偉業と讃えられた『大漢和辞典』の編纂者、諸橋轍次。座右の銘は『論語』の「行不由徑」。自然豊かな故郷をこよなく愛し、漢学研究と教育の大道をひたむきに歩んだ諸橋轍次の生涯や功績、その人柄を紹介しています。

33 駒形十吉記念美術館

駒形十吉
長岡市今朝白2-1-4
0258（35）6111

当館は、実業家駒形十吉晩年のコレクションを収蔵・展示する美術館です。2022年は、駒形が深い交流を持った加山又造、加藤唐九郎、そして駒形が愛した画家、速水御舟、村上華山の作品を順次展示いたします。

34 長岡市河井継之助記念館

河井継之助
長岡市長町1丁目甲1675-1
0258（30）1525

河井継之助の生家跡に建つ記念館で、旅日記などゆかりの品を多数展示しています。本年には継之助を主人公とした映画「峠　最後のサムライ」が公開予定となっています。ぜひ一度、お立ち寄りください。

35 新潟県立近代美術館

全般

長岡市千秋3丁目278-14
0258（28）4111

長岡市の「千秋が原ふるさとの森」にある美術館。地元の収集家による「大光コレクション」を軸に、近代の流れを見通せる国内作品や19世紀の西洋美術、県出身作家を主とした「新潟の美術」など、多くの名品がそろいます。

36 新潟県立歴史博物館

全般

長岡市関原町1丁目字権現堂2247番2
0258（47）6130

常設展示では縄文展示を中心に新潟県の歴史と文化を紹介。昭和30年代の雪国の雁木通りや、縄文人の四季の暮らしを実物大で復元しており、タイムスリップした気分を味わえます。様々なテーマによる企画展等も開催しています。

37 良寛の里美術館

良寛、由之、貞心尼

PASS

長岡市島崎3938番地
0258（74）3700

良寛と貞心尼の出逢いの地にある当美術館では、貞心尼没後150周年にあたり、特別展として貞心尼展を開催します。併せて良寛遺墨も展示して2人の温かい交流を詩歌や書を通して感じとってもらえる展示です。

38 ドナルド・キーン・センター柏崎

ドナルド・キーン

柏崎市諏訪町10-17
0257（28）5755

80年近くを日本文学研究に費やしたドナルド・キーン先生の「人となり」「作家たちとの交流」「研究の業績」等を紹介しています。今年は生誕100年にあたり、写真で綴るドナルド・キーンのあゆみ展を開催します。

39 魚沼市宮柊二記念館

宮柊二

PASS

魚沼市堀之内117-6
025（794）3800

魚沼の風土が育んだ昭和を代表する歌人宮柊二の遺品や図書資料などを収蔵・展示しています。収蔵資料を順次紹介する企画展と宮柊二の書斎を再現した常設展を開催するとともに、講演会・短歌教室・出前授業などを実施しています。

40 池田記念美術館

池田恒雄／その他

南魚沼市浦佐5493-3
025（780）4080

スポーツ専門誌を創刊し出版業界で活躍した池田恒雄がコレクションした美術品やスポーツ関係資料を収蔵、展示しています。その他文豪小泉八雲の手紙や遺愛の品などを展示する小泉八雲文学資料室もあります。

41 鈴木牧之記念館

鈴木牧之

PASS

南魚沼市塩沢1112-2
025（782）9860

「忍」を信条とした鈴木牧之は、40年の紆余曲折を経て雪中の暮らしぶりを『北越雪譜』に著しました。当館は木の温もりを感じる「せがい造り」の空間に、牧之の遺墨資料や雪国の道具、そして塩沢の織物などを展示しております。

42 南魚沼市トミオカホワイト美術館

富岡惣一郎

PASS

南魚沼市上薬師堂142
025（775）3646

今年、生誕100年を迎えた洋画家・富岡惣一郎の「白の世界」シリーズを展示しています。雪の白に魅了され、自ら開発した白油絵の具「トミオカホワイト」と独自の描画方法で表された白の美をご覧ください。

43 良寛記念館

良寛

出雲崎町大字米田1番地
0258（78）2370

良寛記念館は、僧侶で書家・歌人でもあり「越後の英雄」と呼ばれた良寛の出生地の出雲崎町に在る美術館です。年に4回ほどの企画展を行い「日本書道の究極美」と云われる良寛の遺墨をご紹介しています。

44 湯沢町歴史民俗資料館「雪国館」

川端康成／その他

PASS

湯沢町大字湯沢354-1
025（784）3965

川端康成の小説『雪国』の情景を描いた日本画ギャラリー、ヒロイン駒子のモデルといわれる松栄が住んだ置屋を再現した「駒子の部屋」が見所。民具・農具を川上四郎の童画にあわせて展示している他、湯沢町の歴史を伝える品々も。

45 岩の原ワイナリー 川上善兵衛記念館

川上善兵衛

上越市大字北方1223
025（528）4002

岩の原葡萄園の創業者であり、「日本のワインぶどうの父」川上善兵衛が取り組んだぶどうの品種交雑やワイン造りの歴史がテーマ別に展示されています。

46 小川未明文学館

小川未明

上越市本城町8-30 高田図書館内
025（523）1083

「日本児童文学の父（日本のアンデルセン）」といわれる小川未明のおいたちや業績、作品が生まれた背景などを紹介しています。2022年度は未明生誕から140年にあたり、市内ではさまざまな催しを行います。

47 小林古径記念美術館

小林古径
上越市本城町7-1（高田城址公園内）
025（523）8680

小林古径の作品とともに、上越市ゆかりの作家の作品を収集・展示する美術館です。東京都大田区南馬込から移築復原した小林古径邸と、再現された古径の画室もあわせてご覧いただけます。

48 坂口記念館

坂口謹一郎
上越市頸城区鵜ノ木148番地
025（530）3100

応用微生物学の世界的権威で「酒博士」として知られる坂口謹一郎博士の功績と酒造り道具の展示のほか、敷地内の雪椿の開花にあわせ4月1日から20日まで「坂口謹一郎博士と酒とつばきの祭典」を開催します。

49 上越市立歴史博物館

歴史
上越市本城町7-7（高田城址公園内）
025（524）3120

常設展は「越後の都」をテーマに、繁栄した高田城と城下町の様子を模型やVR映像などで紹介しています。令和4年度は「森成麟造―上越考古学の先覚者―」「文化財指定記念　日本スキーの黎明」などの企画展を開催します。

50 前島記念館

前島密
上越市下池部1317-1
025（524）5550

本館の横に立つ石碑は表は渋沢栄一書、背面には坪内逍遥、市島謙吉、會津八一による石文が刻まれています。「日本文明の一大恩人がここで生まれた」の書き出しで功績が刻まれています。「日本近代化の父」に相応しい人格者です。

51 糸魚川歴史民俗資料館《相馬御風記念館》

PASS

相馬御風
糸魚川市一の宮1-2-2
025（552）7471

明治から昭和にかけて多彩に活躍した郷土の文人・相馬御風の関係資料を中心に収蔵・展示しています。企画展も随時開催しています。糸魚川駅近くの県指定文化財史跡相馬御風宅もぜひご来館ください。

編集後記

いまだ収束の見通しが立たない新型感染症禍のなか、今号への原稿や情報提供、広告などでのご支援をいただきました皆様に、深く感謝申し上げます。今年度は企画展関連のイベントおよび講演会を2本開催し、その要旨を本誌に掲載しました。依然として、イベント開催には慎重にならざるを得ない状況です。

当館では、今後も企画展示や本誌を通して「人の文化」を全県に伝えることを目指して参ります。今後とも何卒お力添えを賜りたく、お願い申し上げます。（伊豆名）

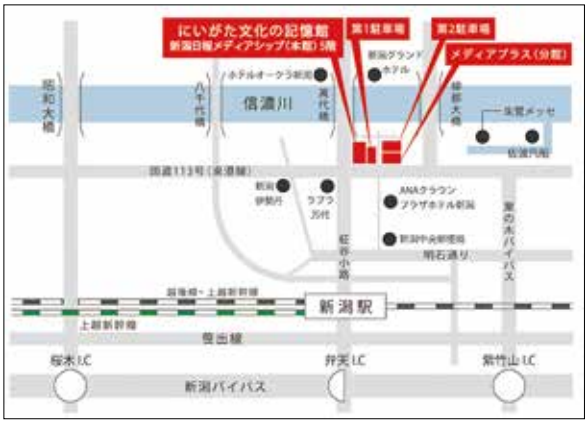
利用案内

開館時間
午前10時～午後5時（入館は午後4時30分まで）

休館日
月曜日（祝日の場合は翌日）、年末年始、展示替え期間
※施設の保守点検等のために臨時休館する場合があります。

入館料
一般　：500円（400円）
学生（高校生以上）：300円（240円）
中学生以下無料
※（　）内は団体20名以上
※団体観覧は当館までご連絡ください。
※当館へはメディアシップのエレベーターをお使いください。
※開館日の開館時間以外は、エレベーターは5階には止まりません。

交通のご案内
新潟駅から：タクシー　約5分
徒　歩　約15分
新潟空港から：タクシー　約15分

駐車場のご案内
メディアシップ駐車場
第1：料金　220円／30分
（夜間最大1，000円）
台数　約60台（3～4階、一部月極あり）
第2：昼間料金200円／30分（昼間最大700円）
夜間料金　200円／60分
（夜間最大300円）
台数　約90台

にいがた文化の記憶館
〒950-0088　新潟市中央区万代3-1-1
新潟日報メディアシップ5階
TEL　025（250）7171
FAX　025（250）7040
http://nmmc.jp